

R 8 年度：ワーキンググループ（チーム）について

WGについては、事業開始当初は厚労省手引きに示された8項目に沿った編成でスタートしたが、取組みの進捗により、課題に即した編成へと変化させてきた。

地域包括ケアシステム構築を目指した2025年が到来し、今後は2040年に向けて新たな課題に向けて取組む必要があり、WGを再構築させることとした。

- R 7 現在 総合企画WG・住民啓発WG・
研修支援WG（絆研修ブラッシュアップチーム）・
在宅療養支援WG（急変時情報整理部会）

■■ 再構築案 _____ は、再構築WG・内容

- ◎ 総合企画WG ……事業全体の企画・進捗管理等
- ◎ 住民啓発WG ……地域住民への医療・介護分野の啓発活動の企画、実施
多世代への啓発方法（動画・SNS等）の企画
- ◎ 研修支援WG ……絆研修以外の新たな研修の企画等（認知症・看取り等）
- ◎ 絆研修ブラッシュアップチーム（研修支援WGとは別建て：期間限定）
……R 6 年度～検討している絆研修内容の再構築・運営
- ◎ 在宅療養支援WG（急変時情報整理部会）：一旦終了
・R6～R7 年度：急変時情報整理部会のまとめ（報告）をもってWGは、一旦終了
- とうぶざいたくによる課題の再把握
……在宅療養・看取り、居宅施設看取りを妨げる要因（人的資源・教育体制・
家族支援・地域文化等）を構造的に整理し、今後の対策を検討開始する
※新たな協議・検討体制の構築は、課題整理ができ次第検討する

R6～R7 年度:急変時情報整理部会のまとめ(報告)

R8. 3. 16 在宅療養支援WG急変時情報整理部会

令和6年度から、看取りが近い人の急変時に絞って、課題を整理・検討した。結論及び課題については、下記のとおり報告する。

(結論及び課題)

- 1.看取りの方針がチーム(多職種)内で確認が取れている場合は、方向性を迷うことがないため混乱は少ない。おおむね連携、情報共有(伝達)ができています。
- 2.看取り期でない想定外の急変時の連携がうまくいってないのではないかと考えられる。
- 3.経験、知識や情報共有、仕組みなど在宅療養(看取り)の障壁は何なのか、課題の抽出、言語化が難しい。
- 4.看取りに関する自然な経過や、急変時の対応等については別の教育が必要。
(連携推進事業で実施すべき事項であるかは要検討)
- 5.医療・介護がお互い何に困っているかをフラットに話せる、会議や研修ではない場が必要。
- 6.急変時に介護職が困ったとしても医療行為をするわけではないので、連携や情報共有が重要になる。情報共有のツールをデジタル化することで、解決できる問題もあると推察できる。

(次年度以降に向けて)

次年度以降は、改めて現状の把握や職種間で異なると推察する課題の言語化等を押し進める方策の検討、対応策も含めた協議の場を設置し、取り組みを強化していかれることを期待する。

以上